

dōTERRA

Ka Lā Hiki Ola

新たな夜明け

ハワイアンサンダルウッド：コ・インパクトストーリー



KMRの天然林

ハワイアンサンドルウッド

太平洋の真ん中に位置する熱帯のハワイ諸島は、最も近い大陸からも3,200km以上離れています。

火山により形成された島々で、肥沃な火山性の土壌は農業に適しています。

さまざまな名産品がありますが、なかでもハワイ在来種のサンドルウッド（白檀）はその素晴らしい香りとユニークな特性ゆえ、長年にわたって高い評価を受けてきました。

残念ながら、土地やその資源は常に適切に管理されてきたわけではありませんが、現在ドテラは、何十年の間管理が行き届いていなかったさまざまな在来種を適切に保全する貴重な機会に恵まれ、手腕を発揮しています。

ケアラケア地区にはハワイアンサンドルウッドを含む多くの在来種が分布しており、ドテラはハワイ州政府とともに、より良い未来に向けた取り組みを始めています。

サンドルウッドは、ハワイでは「イリアヒ」と呼ばれています。

ケアラケアの管理区域保全計画

「ビッグアイランド」の愛称で知られるハワイ島。その西海岸に位置するケアラケア地区の歴史は、多くのハワイ固有の在来種と密接に関係しています。

「神々の道」を意味するケアラケア湾とその周辺地域は、歴史的にハワイで最も重要な場所のひとつとして知られてきました。高台にあるコナ農園の豊富な農産物と、湾内の豊かな水産資源に支えられたケアラケア地区には、島の王（アリイ）の屋敷や神官の住まい、王族の埋葬地などができ、人口の密集する宗教的・政治的な中心地となりました。

またケアラケアは、1779年に西洋人探検家のキャプテン・ジェームズ・クックらが来航し、初めてハワイ人と継続的な交流をもった場所です。

以来、この地は重要な拠点となり、プロテスタント宣教師によるキリスト教伝来の歴史においても重要な役割を果たしました。1848年に施行されたグレート・マヘレ（土地分配）*の際には、後のハワイ国王カラカウアの母・ケオホカロレと、カラカウアの妹で彼の後に女王となるリリウオカラニが、周辺の土地の大部分について所有権を主張しました。

—『ハワイ州ケアラケア管理地区保全計画』より抜粋

ハワイアンサンドルウッドにまつわる 悲しい過去と明るい未来

西洋人との交流から間もない19世紀初頭、中国とのサンドルウッド貿易がにわかに活気づき、国王カメハメハ1世（カメハメハ大王）自らこの事業に大きくかかわるようになりました。貿易はハワイに莫大な富をもたらしましたが、その陰で民衆はひたすら搾取され、非常に厳しい状況下でケアラケア地区のサンドルウッドを収穫させられたのです。

過去について十分な認識を持つことは、ドテラにとってもハワイの人々にとっても不可欠なことです。ドテラがケアラケア山林保護区（KMR）と関わることは、サンドルウッドをはじめハワイ在来の樹木が育つ未来を取り戻すための力となる、素晴らしい機会なのです。ハワイ出身の高名なヒーラーであるラニ・ヤマサキはこう言います。「イリアヒ（サンドルウッド）をはじめとするハワイの在来植物で森林を再生させていけば、イリアヒはハワイの地、そして地域社会の再生、健全さ、癒やしの象徴となるでしょう」。KMRによるサンドルウッド保全のための丁寧な取り組みは、「Ka La Hiki Ola（新たな夜明け）」の象徴なのです。

* 土地は神から授かった共有財産とされてきたハワイで、土地の私有という概念を初めて定めた法律。全体の1/3を王領とし、一般人のほか外国人にも土地所有も認めた。



KMRにおける苗木の育成



苗床で育つサンダルウッドと宿主オヒア*1

ケアラケクア山林保護区 (KMR)

この一帯はかつて放牧地で、過剰な放牧と伐採のために自然な環境再生ができなくなっていました。行きすぎた伐採が続けられてきた結果、島内ではいくつかの主要な在来種が見られなくなりましたが、最近指定されたこの保護区には約36km²の森林が広がり、多くの在来の樹木が残されています。

KMRを定めるにあたり、サンダルウッドなどの貴重な在来植物を保護するために保全地役権*2が設定されました。保全計画には、森林の再生と繁栄を実現するためにKMRで順守すべき伐採制限の概要が定められています。樹木の切り出しが一切できないわけではありませんが、健全な森林資源の回復に寄与するために、その量と種類は保全計画およびハワイ州政府により監督されます。特にサンダルウッドについては早急な育成と資源回復を図るため、初期段階の現時点では生木の伐採が禁じられ、枯れ木やひどく傷んだ木のみ採集可能になっています。その間に今ある健康な木々を十分に成長させ、適切な時期が来れば収穫で

きるようにしていくのです。

このような取り組みを実施していくことで、かつての美しい森林を取り戻す計画を妨げることなく、持続可能なかたちでのサンダルウッドの収穫が実現する見込みです。KMRの保護区指定、管理目標の設定、大規模な苗木の育成、そして森林再生にかける情熱。そのすべてが相乗効果となって、サンダルウッドやその他の在来種は再び繁栄を取り戻すことでしょう。KMRでは、2020年からハワイ州最大規模の植林活動が始まる予定です。

*1 地図のページの注釈を参照

*2 土地の所有権にかかわらず、環境保全の妨げとなる行為を禁止する米国の制度





基本データ

「ビッグアイランド」と呼ばれるハワイ島の西海岸に位置するケアラケクア山林保護区 (KMR) は、39km²の面積を擁する地区です。

長年放牧地として使用され、畜牛と伐採のために天然林の再生が妨げられてきたKMR。現在、環境回復に向けて全面積の9割以上にあたる約36km²が制限区域に指定され、過剰伐採から保護するため、厳重な管理のもと持続可能なかたちの木材収穫のみが行われています。

KMRには、オヒア(ハワイフトモモ)^{*1}や、サンダルウッドの宿主^{*2}であるコア^{*3}、アアリイ(ハウチワノキ)^{*4}、ホアワ^{*5}など多種多様なハワイ在来の樹木が育っています。2020年からは、ハワイ州最大規模の自然林を目指して植林活動が始まります。

現在、管理計画によって完全なる持続可能性の実現を進めているため、サンダルウッドの生木はごく限られた量しか伐採できないのですが、枯れ木は自由に持ち出すことができます。

ハワイ語で「イリアヒ」と呼ばれるハワイアンサンダルウッドにはさまざまな種類があり、そのひとつの「*Santalum paniculatum* (サンタラム・パニクラタム)」がドテラのエッセンシャルオイルになっています。

- *1 ハワイ諸島全土に分布し、特にハワイ島を象徴するとされる樹木。赤く美しい花は「レファ」と呼ばれ、火の神に捧げられたという伝説がある。
- *2 サンダルウッドは半寄生植物で、宿主の根に寄生する。
- *3 ハワイ固有の樹木でアカシアの仲間。高級材として、建材のほかカヌーや武器、楽器等に使われてきた。
- *4 ハワイからアメリカ本土にかけて自生する低木。建材として用いられるほか、赤い実は染料としても重用された。
- *5 亜熱帯地域に分布する常緑低木・トベラの仲間。幹から直接、塊状の白い花を咲かせる。



自然林を通る保護道

サンダルウッドの成長：友に助けられて生きる

高さ9m以上になるハワイアンサンダルウッドの木ですが、自らの力だけでそこまで成長できるわけではありません。ハワイアンサンダルウッドを含むサンダルウッド（白檀）の仲間は半寄生植物で、必要な養分の一部を宿主から得ています。炭素は光合成で自ら作り出すことができますが、土壌から得られる水やその他の必要な栄養分を吸収するためには、他の植物の根につながらなければならないのです。サンダルウッドの木は通常、他のさまざまな樹木や植物とつながり、健全な生長を支えてもらっています。

サンダルウッドオイルの抽出：価値ある心材を育てていく

世界中で高く評価されるサンダルウッドオイル。オイルは樹木全体から抽出できますが、最も濃度が高いのは中心に近い心材の部分です。辺材に対する心材の割合は樹齢を重ねるにつれて大きく増加するため、木の十分な成熟を待って収穫することが重要。また、生育期間を長くすることは、サンダルウッドの木々が森林において重要な生態的役割を果たすことにもつながります。

伐採された樹木は、細かく碎かれチップ状になります。その後、品質を損なわないよう独自の蒸留プロセスを経て、エッセンシャルオイルが抽出されるのです。チップに水蒸気を通すと、木材に含まれるエッセンシャルオイルが分離して溶け出します。そうしてできた水とオイルの混合物が冷えると、さらに分離してオイルだけが表面に浮き上がり、集めることができるのです。

dōTERRA

doTERRA CPTG Essential Oils Japan 合同会社

〒106-0031 東京都港区西麻布3-5-5 dōTERRA Japanビル

TEL: 0800-100-0789 (通話料無料) / 03-4589-2601

https://doterra.com/JP/ja_JP

20200120-Hawaii-v1